

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1390
施設名	くりはら愛育保育園
施設所在地	足立区栗原4-6-7
法人名	社会福祉法人 興善会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然や素材（画材や廃材等）で発揮される遊び

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

子どもたちが日々遊ぶ園内環境を生かしてのより一層の深い学び（遊び）の実現。

★昨年度までの姿

○身近にある自然や素材を通して、十分な分量と時間等の環境を作り、素材そのものに触れることで、「面白い」「楽しい」と感じ、「こうしてみたい」という発想の表出に繋がっている。

2. 活動スケジュール

通年（年度）を通して
（素材に触れる（1期） → ダイナミックに遊ぶ（2期） → 工夫/探究（3期） → 思いの実現（4期））

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・工作材料ワゴン ・材料棚 / 戸棚 ・工作作業机 / 作業棚 ・人工芝
- ・園庭環境（ビオトープ/バタフライガーデン/植物・昆虫等）
- ・絵の具、牛乳パック、空き箱、紙コップ、新聞紙等の素材
- ・保育室、園庭を横断的に回遊でき、子どもの興味や関心に応じた場所で遊びが生まれる設定を随時行う

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・素材ごとにコーナーを設け、思い切り楽しめる物量と空間や時間を用意しておく。
- ・素材を組み合わせで遊びが広がるよう“混じり合える”ように環境構成にしておく。
- ・慣れ親しんだ素材から材料棚に置き、いつでも触れられるようにし、保育室や園庭を自らが選択しながら、身近な環境と主体的に関わり、思い思いに探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- 日々素材遊びを継続して行える環境作りをする。各クラスや廊下、テラス、ランチルームを開放し、子どもが自分で遊びを選べるようにする。慣れ親しんだ素材から“いつでも触れられる”ように材料棚に並べていく。年齢や素材によっては、扱いやすいサイズにしておくなど出し方の工夫をした。また「扱いやすい」「見やすい」というところを意識し、5歳児を中心に配置を考えていった。
- ・「〇〇へ行ってきます」と目を輝かせて、行きたい場所を自由に行き来する。
 - ・思わぬ遊びに発展し、友だちと繰り返し楽しむ。
 - ・楽しそうな雰囲気引き込まれ、乳児も進んで遊びに入っていく。
 - ・素材をうまく付けられない、テープやスズランテープを切れないなど、下級児の困り感に上級児が進んで手を貸す。
 - ・「〇〇みたいなものが欲しい」と自分のイメージに合った素材を要求してくる。
 - ・養生テープを手で切れた！スズランテープがハサミで切れた！など「できた」ことを保育者に伝えたり、「やってあげる」と友だちに進んで声を掛け、子どもたちの中で役割分担が構成されていく。
 - ・絵の具コーナーでは、思い切り楽しめるような設定を入れることで、伸び伸びと全身で楽しむようになる。「やってみたい」とわくわくする気持ちを膨らませ、筆で、手で、足で、全身で触れ、感触や温度を感じる。「うわぁ～」と自然に出る声に惹かれ、絵の具コーナーに子どもたちが集まってくる。最後の片付けまで楽しみながらできるよう食器用スポンジを用意すると、喜んで絵の具を落としていた。
 - ・沢山の木や草花、ビオトープが魅力の園庭では、ダンゴムシやてんとう虫を捕まえて観察を楽しんだり、可愛い草花を料理(砂遊び)のトッピングに使ったり、ビオトープに住むメダカやエビの観察をするなど、自然の中で触れ合いや発見を楽しんでいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・素材を出す際に、目新しいものには食い付きが良かったため、初めは十分な量が必要。
- ・子どもの遊び方や様子に合わせて、素材を継続して出してみたり、引っ込めたりした。遊び込むことに繋がったり、反対に飽きてしまったり、また、新たな広がり生まれるきっかけになったりしていた。遊びがマンネリ化したり、飽き始めた際には、一度素材を引っ込めたり、新たな素材を投入してみたりすると、“遊びが動く”きっかけとなる。
- ・素材遊びを通して見える“子どもの姿”や“友だちの関わり”に着目することで、「新たな一面」や「育まれているもの」に気付くことができた。
- ・日々繰り返すことで、素材を“組み合わせて遊ぶこと”や“遊び・制作に取り入れること”に繋がったり、素材を通して「友だちとの関わり」が生まれていた。
- ・異年齢交流を継続していくことで、できないところを上級児が進んで手を貸したり、下級児が上級児を頼ったりし、自然と“思いやり”が生まれ、関係性が育まれていた。
- ・素材は、自由自在に形を変えることができ、どんな遊びにも代用できたり、発想次第で無限に広がりがあり、改めて「素材の魅力」に気付くことができた。
- ・素材を出す場所（「保育室」「プレイルーム」「園庭」など）によっても遊び方が変わり面白さがある。